

# 小久慈焼陶芸教室のご案内

久慈市の未来づくり事業「小久慈焼チーム」では今年も陶芸教室を行います。

今年は久慈市の「体験型観光利用促進事業補助金」を導入し、「1/2補助」があります。

開催日： 11月21日(土) 10時~12時

場所：小久慈焼販売所内の陶芸教室 10時開会式

人数： コロナ対策により15名とします。

対象：原則小久慈町民(親子での参加を大歓迎です)

材料費： 夢灯り 2,000円→1/2補助で1,000円

手捻り 1,000円→1/2補助で 500円

締切り：11月13日(金)

申込み：小久慈市民センター ☎59-3051



問合せ 小久慈焼チーム  
八屋 090-7061-7092

## 町内会会長会議を開催

10月8日(木) 町内会会長会議を開催しました。

会議では、

- ① 「コロナ禍での避難所設営」に関わり、「避難所サポーターの設立」について
  - ② 町民の究極の安全体制となる「自主防災会の設立」について
  - ③ 年末に市民センター等を飾る「スマイルイルミネーション」について
- 等を話し合い、各町内会長の意見を賜り、最終的に10月14日の役員会で決定することとしました。また、上日当町内会長の改選があったことから新旧役員の新歓会も併せて行いました。

### 「避難所サポーター」を設立

コロナ対策で現在の避難所は公的施設(市民センター・小中学校)に限られています。さらに、3密を避けるよう人数の制限もあります。従って、体育館等も区割りをし避難用簡易テントの設置等も行います。

9月10日(木)にまちづくり協議会では「コロナ禍での避難所運営」について研修会を行ったことは前号(10/1)でご報告しました。

研修会で意見のあった「避難所サポーター」の設立について、10月14日(水)の第5回役員会で下記のとおり確認しました。

1. 各地区公民館(避難所)では  
各地区の公民館(避難所)はこれまで通り各町内会役員等により避難所を設営する。
2. 小久慈市民センター(避難所)  
大沢田、秋葉、琥珀、上柏木の各町内会では町内会の事情にもよりますが、「1~2名」のセンター「避難所サポーター」をお願いし、避難所設営指示が出たら、センターの応援に出動をお願いする。
3. まちづくり協議会より事務局3名を派遣する。

以上の内容です。

最近では全国各地で「ゲリラ、局所豪雨」が多発しています。当地でも昨年は10月に台風19号、25号と立て続けに避難所を開設しています。

安心して避難出来る体制確立のためにもご理解頂きますようお願い申し上げます。

第2回

# 小久慈朝市 開催します

11月8日(日) 8時~

完売次第終了

会場：旧長内中学校

(概ね9時30分頃)

新米・野菜・果物・団子・餅・小久慈焼・コーヒー・山根の軍配餅等出店予定

今年最後の朝市です、新鮮野菜・米等の販売や久慈市歴史民俗資料室も無料開館致します、皆様のご来場お待ちしております。

なお、新型コロナウイルス感染症予防のため、37.5度以上の発熱・風邪等の症状のある方は来場を控えてください。

当日は、マスクの着用・アルコール消毒と受付で検温と名簿の記入をお願いします。人と人の距離をとりながら買い物をお楽しみください。

## 第1回朝市は 大勢で賑わう

~奇跡的な雨上がり~

はじめに 未来づくり事業による「小久慈朝市」は地元の顔見知りの皆さんが出店し、貴重な地域交流の場となっています。また、資源やお金の地域内循環の役割も果たしています。

例年7月から開催している「小久慈朝市」は新型コロナウイルス感染予防のため9月まで中止しました。

この間、朝市チーム、大向集落支援員が何度も出店予定者を尋ね近況をお聞きしたり、コロナ対策の説明や話し合いを重ね、10月11日(日)と11月8日(日)に開催することとしました。

お盆前の特品として「48ロウソク灯台」は、朝市中止の期間だったことから、別立てとし市民センターへの注文で、8月2日(日)の引き渡しを行いました。必需品であり特別対応でご協力頂きました。

### いよいよ第1回朝市開催です

コロナ対策による「出店要綱」の見直しや「中止判断の基準」等朝市チーム会議を重ね、出店者にもお知らせし、ご意見を聞いて万全の準備をしました。

昨年までは山根との交流事業として行った「フキ採り体験交流会」はコロナ対策により中止しましたが、山根未来づくり会では「べっぴんカフェ」を開催し「軍配餅」を販売していることから、今年の交流事業として「軍配餅」の出店をお願いしました。

長期予報では朝市当日は「☁️🌧️」：70%確立で6時過ぎまで小雨でしたが、7時の出店者、スタッフ集合時には奇跡的に雨が止みました。テントの準備や店揃えが手際良く行われました。

7時30頃から来場者の皆さんも並び、検温、名簿記載、マスク配布等行い、7時55分朝市チーム渡邊リーダーの「開会宣言」です。



小久慈

まちづくり通信

第 55 号

令和 2 年 11 月 1 日

小久慈まちづくり協議会広報委員会

久慈市小久慈町

21-47-14

小久慈市民センター

電話 59-3051

2・3頁記事

第1回朝市

義援金募金

イルミネーション

じゅうね研究会

### 交流の輪が広がる

地元の皆さんが栽培した新鮮な野菜、新米、お餅、漬物、スイーツ、切り餅、ご飯、団子、ピザ、ガンスキ、あずきぱっとう、デンガク、軍配餅など12店舗に数多くの品々が並びました。

来場者も各自のコロナ対策と思われますが「朝早くから大勢」でなく、「開店少し前から中庸に、中頃も中庸に」と滑らかな賑わいでした。

約250名の来場者の皆さんは、知り合いの店を尋ね「元気だったかー」、「しばらくだねー」と声を掛け合い交流の輪が広がり、「スーパーまで行けないが、ここには歩いて来れる」と常連さんの言葉も聞かれました。



9時過ぎには完売店も出始め、9時30分閉店のアナウンスをして片付けの準備に入る頃には小雨がポツポツ降って来ました。

今年は多くの活動が中止となり、朝市が初めてのイベントでした。町内の皆さんのご期待に応えるべく、スタッフも出店者も意気込みが大きく、お陰様で大勢お出でいただき賑やかに開催出来ました。

来場者約250名、出店者約30名、スタッフ約20名、合計約300名で小久慈の賑やかな交流の場となりました。ご来場ありがとうございました。出店者の皆さんご苦労様でした。第2回は、11月8日(日)午前8時から開催します。



第1回朝市(10月11日)の出店者一覧			
No	出店者	品目等	備考
1	ルピナス	野菜、漬物	代表 堀内英子
2	水上農園	野菜、果物	水上 静雄
3	萩生田さと子	野菜、餅	
4	日沢志奈子	ご飯、団子	
5	中山勝広	新米、ピザ	
6	馬内エイ子	野菜、漬物	
7	あま 処	おでんコンニャク他	代表佐々木るみ子
8	カフェチーム	自家焙煎コーヒー	代表 岸里卓見
9	小久慈体協	クジ引き、お菓子	
10	小久慈焼	訳あり品	小久慈焼チーム
11	山根未来づくり会	軍配餅他	
12	ばあばカフェ	スイートポテト、和菓子	幸 町

### 昨年の「台風19号被災者義援金」ありがとうございました。

朝市では、久慈市で行っている「昨年の台風19号災害義援金の募金」に協賛して会場に募金箱を設置、募金箱の横で文化祭フクロウの彫刻でお馴染みの工藤功さん作成の疫病退散アマビエの彫刻が募金を呼びかけてくれました。

お陰様で来場者の皆さんから6,779円のご厚志を戴き、次の朝市までは市民センター窓口に募金箱を設置し募金をお願いをしています。併せてよろしくお願い致します。



# 小久慈をイルミネーションで

今年はコロナで半世紀50回続いた「小久慈町民文化祭」を中止しました。

しかし、コロナで暗い世相や日没が早くなる年末に掛けて、文化祭に替わる活動として「地域を照らすスマイルイルミネーション事業」を行うこととしました。

取り組みは従来の「文化祭実行委員会」を「スマイル実行委員会」に読み替えて行います。

活動内容は久慈市の地域コミュニティ振興事業補助金を導入し地域をイルミネーションやライトアップし笑顔で過ごせる町づくりと防犯も兼ねた安全安心な地域づくりを行うものです。

具体的にはメインのイルミネーションを小久慈市民センターに設置します。また、個人・企業・団体等地域にイルミネーションやライトアップの協力をお願いします。



コミュニティ振興事業補助金の2割は自己資金であり文化祭特別会計と町内の企業商店の皆さんに協賛金をお願いしたいと思います。

問合せ：小久慈市民センター ☎ 59-3051

## 軽米町を視察が じゅうね研究会が

前号(10/1)で「じゅうね(エゴマ)研究会スタート」として、未来づくり事業「じゅうねチーム」(代表大井正信)として発足したことを報告し、町民の皆さんの入会(年会費1,000円)をお願いしました。

80才代の方なら「じゅうね」(じゅんね)を栽培した方も居られると思われます。山根の実家(まちづくり事務局長：八屋勉)では栽培しており、小麦餅にジュンネ味噌を付けて焼いたのを油っこくて好きでした。

そのような話から「じゅうね研究会」が立ち上がり、9月29日(火)第1回研究会として、軽米町へじゅうね(エゴマ)の先進事例を視察に行きました。

視察には会員10名、センター2名、地域づくり振興課1名、農政課1名、集落支援員1名の計15名で久慈市のバスで出発しました。

研修先は「県北農業研究所見学」、「ミレットパーク・ミレットプラザでエゴマ料理の試食会」、「産直「みる・ミルハウスでエゴマ製品の調査」、「エゴマ栽培農家の圃場視察」等です。

実際に栽培しているエゴマを見ることが出来とても有意義な視察でした。エゴマ(じゅうね)はシソ科の植物で、実物は「青シソ」を大きくした様なモノです。概ね大人の背丈位の高さで、青シソと同じ様に種子を付けますが、こぼさない様に収穫するのがコツです。

今年中に遊休農地を探しお借りして、春には作付けする予定で研究会を重ねる予定です。

興味のある方はご入会願います。

問合せ：小久慈市民センター ☎ 59-3051



エゴマ栽培農家の圃場で説明を受ける参加者